



女性技術者の紹介

経験した業務と多様性について 学ぶこと

中日本建設コンサルタント株式会社/
水工技術本部/第3部/第1課

山田瑠莉子



1. はじめに

現在、中日本建設コンサルタント株式会社に入社して、3年目になります。入社してから現在まで、下水道管渠の設計部署に所属しています。大学では土木を専攻し、研究では地球科学（地質、地球物理など）について学びました。そして建設コンサルタント業の道へ進みました。

今回はこれまで経験した業務で学んだことや、仕事以外のことについて紹介します。

2. 経験した業務で学んだこと

入社してからの2年間は調査業務に携わることが多く、現場での経験からたくさんのことを学ぶことができました。今回は、特に印象的だった2件の業務について紹介したいと思います。

(1) 既設マンホール対策設計業務

液状化により浮上する可能性のある、既設マンホールを対象に、浮上対策を実施するための業務でした。業務

の内容としては、現地調査と浮上判定計算を行い、対策工法の検討をするものです。この業務では、現地調査が必要なマンホールが比較的多くあること、その場所が点在していることから、調査が1カ月以上続くものでした。この業務ではまず、調査の工程を組むところから学ぶところがたくさんありました。実現可能な工程を組む必要があるため、調査のための申請期間や、調査にどのくらいかかるのか内容を把握すること、調査の順序、他の工事を行っているところなど把握すべきことがとても多く、入社したてのころは驚きましたが、工程を組むことはどの仕事でも重要であることを学びました。

入社する前は、建設コンサルタント＝設計をする人というイメージで、現場に出ることは少ないと思っていましたが、調査業務でも管渠の面整備でもよく現場に行くことが多い部署に現在所属しています。現場に行き、机上だけではなく、実際に自分の目で見ることで理解が深まることも、この業務で学ぶことができました。

(2) マンホール蓋変遷表作成

ストックマネジメント計画時に必要となる、マンホー

表-1 変遷表 (φ600マンホール蓋)

| タイプ名 | | 101 | 105 | 106 |
|----------|--------|-------------|-------------|-------------|
| 蓋表 | | | | |
| 蓋裏 | | | | |
| 呼び径 | | φ600 | φ600 | φ600 |
| 設置年 | | 1975年～1979年 | 1996年～2008年 | 1999年～2010年 |
| 支持構造 | | | | |
| 材質(蓋/枠) | | FCD | FCD700/600 | FCD700/600 |
| 受枠高さ(mm) | | H=110 | H=110 | H=110 |
| 安全対策8項目 | がたつき | ○ | ○ | ○ |
| | 破損 | △ | ○ | ○ |
| | 浮上・飛散 | × | ○ | ○ |
| | 不法投棄混入 | × | ○ | ○ |
| | 転落・落下 | × | △ | △ |
| | 雨水流入 | × | ○ | ○ |
| | スリップ | △ | △ | △ |
| 腐食 | × | × | × | |

ル蓋の情報の収集・整理を行うための業務でした。マンホール蓋の機能や性能を机上調査と現地調査にて評価をするので、机上・現場の情報整理だけでなく、ストックマネジメントについても勉強のできた良い経験となりました。

ストックマネジメント計画に繋がる業務ですので、指針や他業務の報告書から、勉強しながら業務を行いました。業務の中で分からないことや、自分の部署では扱ったことがないソフトを使わなければいけない時、初めはすべて自分でなんとかできないかと考えましたが、設計の工期を考えて、知識が豊富な他部署に相談することにしました。そうしたことで、効率よく業務が進むだけでなく、より内容を理解することができ、身になる業務となりました。知らないことが多い今は、いろいろなことを自分でとりあえずやってみることも勉強のために必要だと思いますが、ジャンルを問わず様々な人と関わりながら仕事をする中で、自分自身の成長につながることを身に染みて感じました。

3. 多様性とインクルージョン

建設業界では女性技術者が少ないとされていますが、女性活躍推進法の施行により、女性技術者が増えてきているように思われます。建設業界だけでなく、世界的に様々な性別・人種・境遇を受け入れていこうとする流れがあり、多様性という言葉を目にするのが最近多いと感じている方も多いのではないのでしょうか。

私に小さい頃から、多様性について教えてくれたのは、セサミストリートです。日本では、英語教育番組という認識がされていることが多いですが、実はキャラクターやストーリーには世界中に向けた、深いメッセージが込められています。私が幼い頃からずっとセサミストリートを好きなのも、キャラクター達がかわいいことはもちろんありますが、セサミストリートから学ぶことが多くあったことも理由の一つです。

ここで、セサミストリート制作の経緯とエピソードから学ぶ、「多様性とインクルージョン」について、気づきと学びをこの場で共有させて頂きたいと思います。現在、日本ではテレビ放映はされておきませんが、公式で日本語字幕のついた動画が配信されていますので、日本でも視聴することができます。

(1) 制作の背景

アメリカのNPO法人・セサミワークショップが制作し、様々なメディアや教育プログラムを世界約150以上の国や地域に提供しています。活動の背景には、教育と深く関連しており、世界中の子供達が「かしこく、たくましく、やさしく」育つことを支援しています。ですので、登場するキャラクター達は一人一人、色や性格、境

遇が異なるのです。英語を学ぶ教育番組だと思われがちですが、実は「多様性とインクルージョン」というテーマがセサミストリートが伝えたいテーマなのです。インクルージョンとは、一人ひとり異なる存在として受け入れられ全体を構成する大切な一人としてその違いが活かされることをいいます。

(2) セサミストリートと多様性

セサミストリートのエピソードでは、それぞれ異なる個性や文化を認め合っていくことの大切さを教えてくれます。「多様性とインクルージョン」をテーマに社会の問題にフォーカスした、キャラクター・エピソードが出てきています。

「セサミストリートの感謝祭」というエピソードは伝統との向き合い方、相手の伝統を尊重することを学ぶことができるお話です。このエピソードでは、様々な国出身のキャラクター達がそれぞれ感謝祭の伝統料理を持ち込みます。はじめは自分とは違う、今まで食べたことのない他の伝統料理に対して、これは感謝祭の料理ではないと、否定をしてしまいます。しかし、自分の知らない食べ物や伝統に触れてみる楽しさ、大切さに気づき、感謝祭の日には、いつもと違うものを食べて自分の知らない伝統に触れることがセサミストリートの伝統となりました。

日本では長い間少数派だった、社会に出る女性や外国人の方が働きやすくなる法律や制度が整ってきているように思います。もちろん制度が整っていくことは良いことですが、女性・外国人のための制度だけでなく、すべての異なる性別・人種・境遇について一人ひとりが認め合うことが大切だと学びました。

4. おわりに

今回は業務から学んだことと、セサミストリートから学ぶ、多様性とインクルージョンについて紹介させて頂きました。業務ではまだまだ初めて知ることも多く、日々勉強だと感じています。徐々に後輩も入ってきているので、技術的なことは勉強中ですが、今まで学んできたことを伝えていけたらなと思っています。そして仕事と仕事以外の楽しみを両立させて、バランスの取れた生き方をしたいです。

新型コロナウイルスの影響で、テレワークと時差出勤が定着しつつある現在です。いろいろな働き方があることを社会全体が認識し始めているように感じます。テレワークの可能性を多くの人が実感している今が、働き方を変えるのかもしれないと思いました。今が働き方などの大きな変化点の時期だと思います。前例のないことが多い時代で、これからどのように生きていくか、考えていきたいです。